

浄霊の正しいお取次ぎ

黎明

発行者 所
 京都市左京区吉田神
 楽岡町3
 有限会社洛東社
 郵便番号606
 電(771) 2022 番
 定価1部30円

春季大祭
教会記念祭号

原典典略語表

靈信說奇光頂教地 宋
靈信說奇節節地 宋
界仰 光重教上 世
叢雅 話示元天 揭
談話集集錄錄集國 分

新しい年を迎えて

多田光行會長

第二には、明主様がお説き下さいました『主神直衝の警告』
に於ける御教を、「早く、大勢の人に」伝えるべきではないかと
思ふ所あり

第三に、地方業界が明るくなり浄化が強くなってきた時

第二に、希望のお取次ぎと主眼轉移の体験を各の内にし
来る限りいたたいておくことであります。

先考で取次ぎ送っていたが、きました。御教へにお説き下さつて取りましたように、現在人信の招許をいたなっている私共

は、段々變化が速くつて来た。而して、神祕の御氣の光を離れ
教へを捨てた。さうして世の中の人人を救ふ爲に、また、その時
使命をお託せられた。それである。さて、この時、彼は二十分
に十分の使命を委ねられていた。一人一人の人が、
から相當の報酬と御氣を受けていた。おとこが急遽で退き
り、もそれが出来ればそれは、その時にまでみなやられた
しむ。」「これが出来なかつた。認めなければなりません。」

『生命の安全確保』（集刊）25・6・13 が来べき真の
文明世界の基本条件であり、その「生命」を「得難い」すの

「こゝに我が住居を建てたいがけはけはなはない。風まづここは、誰しもが参りては簡単に勝たぬと云ふに厚くのお取次を爲す所となつたわけだ。」「神機様の御託を聞いてしまひ、雪雲の御殿の中にあられないで眞實な事を教へて下さる。」「更に勉強していただく努力が要なり、神機様も尙氣色なり。一種の精神衛生程度にして説明させていただきますが、自分勝手な考えで神機様ですべからぬ。だがこれらに、自分勝手な考えで、しかもそれと爲さず世の中の人に取次ぐやうなおれがあることあります。」

また、二つの目には些端の光のまがあらま
き。これの一寸の中には神様便に御心であられて
ることは申上げるまでもないことあります。私共はこ
れを体験を通ず神様の御力と御心に預かされていたたける
ものでありますが、もし神様のいまだん眞實な自分自身
のただけにとて、神様の御即ちの愛を知るやうにたゞば
しないで多量の方々を救済する方に生かされてゐない
ならば、世々く数々の罪咎しめ罰問を体験させて下さ
れた神様の恵みに反することになると思ひます。

『聖書の巻一』第二〇章に「我々が主なる神に

「正算でいい。心の神に写さなければ、そこから誤謬が起る。」「結構神を誦していう生々々々から早く発見して、という事にはなす。ここに開眼の外縁くはいる事では非常に重要な点があります。」「中絶。その神の御力を少くも神の御力をいと運ぶというためには、御神神を山読むとい事が一番よむわけだ。ですから御神神を山読む。」「問はるに分らないのだが、あると云ふと、或いは聞かたてが誤むと。」「たゞ、そんな良い事がある。」「人はきりてゐるのだからして自分分らない。たゞ、

光
的
多
火

明主様御真筆

に、一人とても多くの人々を救っていた大切な方、その時になって神様の強い御力で御救いを正しくお取交さずしていただく貴女、今から御導きし、その瞬間を送っていたにいておくことであります。

病氣であるとは何ともお取次ぎをさせていただいてまいりました。勿論、ここで「病氣」と言われて固りますのは、体の病氣と、精神の病氣の両方が含まれているわけでもあります。明主様は、この根本の原因を数々の御教えを通じて御明

淨靈に關する訓教は、かつての本紙（『黎明』355）でお取次ぎさせていただきましたが、淨靈こそ天の時來つて救済の大使命を掲げて出陣されました救い主明主様が行使する神の超能力的なものであります。明主様が内祝として

たかについて自分勝手な解釈をして、その誤謬な考えを堂々と人に押しつけるようなことは絶対に許さなければなりません。神様が私共にお許し下さいたまは直ぐに体験の一つをあげてみることにしよう。その第一は「自然の法則」

[illegible]

私其の許しにないといふ教會が、もてはらの御神前
二の御堂に参されてたゞてゝ出出来、御神恩の万
一これと相違ひはしてゐた。お許しがいたれば、ま
ば、これと相違ひとはいひない。また、是の時は、
神の大徳によつて、奥合禮にて結ばれ、同様にま
が、奥合禮の御神許しにたがひ、必らず永劫に招
ひにたがひ、永劫に招ひにたがひ、永劫に招ひに
以上二の御神恩を、まがひ、まがひ、まがひ、
三、御神恩の御神恩を、まがひ、まがひ、まがひ、

[illegible]

「本教祖は病を治すのが目的の者になつてゐるが、
 世からいふそれではだめで、もと天なき意味が
 事なにいふが、一言にしては淨體とは幸福を生
 ず(地34)でありませ。即ち
 「眞體に向つて靈光を注いで淨め」(地39)てい
 一切の苦みの因である「眞體」の解消法」(地34)が
 でありませ。

私共のとは、長い間唯物科学主義を尊び、神様を

その際、神神を頼みながら、種々な努力をして、いたがところによつて、始めて、その体系をそれだけ完成してしまふに、何れもの人々をお救ひして、いたがた、それを正し、生かされて、いたことが出来ると、思い、主権はかつ、神國や、休職、解散を、下さ、また、致さ、その中に、めづりける、御神を、私共が、少し、く正し、覺え、いたがた、との、願ひ、から、その、下、さ、つ、た、の、を、思、ひ、ま、す。以、上、し、げ、ま、す。こ、の、は、（一）明、4、5、の、に、も、一、度、考、へ、ま、せ、て、い、た、ま、さ、し、が、お、し、ま、す。

[illegible][illegible][illegible]

として神聖なものの一種の美を認識する事で
て其の進歩と宗教的意識との一線を示下さうとする
す。更に勿論この方々主精神が信託と絶対力である
に、如何なる無知主義者と雖も、有神思想に向つたものである。
餘りてここに精神文化史時代に入るのである。

結果、西洋文化は急激に衰へ、其文明世界へと共に
崩壊したといふ事がある。然し、争ひの三大動因は根本
的にはそのままであり、その意味ではそれは（救世教

あつて、一男一女の間に同じような存在に見えましても、一人の体たれが同一人であつても、その性格態度大に相違するわけがあります。むしろ一回一回すべて異なるた在體初めのものであつて考へさせたいだかなければならぬと思ひます。これは、かつて（黎明号）お取次ぎさせていた脚數々があり手が、

「その兩人が何ともしない内は面白いもじ、皮肉もじ」と

物は紙

人ぞ
とた
かあ
あり
ない
いた

て、
でなく、
ければ、
何時も
無所
ける

久々だん胸にいての知識！と言つても、二口
神様の方の御意に対する知識といふのを指す
わけにはいけません。何時も言うところ、

2面上段へ続く

2 面上段へ続く

[illegible]

おかげ

門校へ入学しました。その翌に
かぜをひいたので、学校が休
つたため公費の板屋で、タ
ンと湯水が熱い間まで出てま
した。それを見かねた母が教会
内にとりこまれまして、おかげ
で一日救済を受け、あくる日
は又退院していただきました。
そして、御師様のおかげで除々とな
りなり、今ではほろりと大
門があらまじう。

陸は今、僕は唯物理科学が肩
持たないで唯唯唯心の間に棲ま
ずいて、何かなかと懐かしい

巖田 亨

[illegible]

思い切ってお
同僚をお導き
巖田 亨

タ
ヨ今
シシ
ノ中

腰の痛みは、
 長い間、
 おわびと自己浄霊
 今夜でピタリ

孫の初誕生を
神に娘と感謝

風前

馬着 みさ子

生後目しは生かされぬい風俗
愛受けしは未熟児、神の愛に
救われ、無事初生を迎えす
喜びを御報告申し上げます。

この世に目目の猶太人愛を御守
願をいかに無事産み、初産生
をいかに、家内の子を御報告
してまいります。

昭和六年十一月三日祝
時國は能く気づかぬに、大喜
は、十、未か、初産の、女
早く、心配しとらぬ、の、愛
に待つておりました。午前、助
産師、おまじした、産婦、の、知
り、せ、御行きたし、出、産、
坊、奥、へ、娘、は、出、産、
の、真、實、な、顔、を、体、分、方、
夕、わ、て、お、り、ま、た、。その、ま

おきさんすきて下さい。師は
れ、別當の傳の先生に相談し
ました。俣はずくりといひで
下さと前触れされ、赤んぼは
八月の杓桶、男百廿六日口
多くと赤桶、女さく、俣五
日か種桶で産せん。おきさん
乃方血面がさく、このまゝ
は取けまでもかしいといな
く誤せては非難冤獄であら
う。

此の上様と生駒上町主権

帝王切開の宣告受けた妊婦

[illegible]

三 原 光 子

で、二回お浄土の御取次が、私は四回一度に帰りました。その夜の七時頃、電話で「赤々々」が無事に生まれました。しかも自然（分産）でそして男子です」とのこと、私もほっと安心いたしました。

今まで大體以来、面白い御用もできませんでしたが、このような故に御守護と勇氣を養えてくさいて、明主様本意に有難うございます。これからできる限り多くの人達のために貢献したい御守りにならねばなりません。願ひらせていただきます。この度御守護いたなされました岡本様、兄夫婦、田中様様（兄弟の妹）、三十一日明主様の御葬式を見て、三月十五日お守神を拝受しようと決めました。ただたか様にいかなせん。この度お救いいただいた岡本様が、明主様の自由にお使いいただくのであります。多分またお祈りがたくてきます。明主様有難うございました。

おし上げとおいのやらもあられません。

その後目目（祖母）ミル金飲むになり、小さな手足音由船から、保健所の中多ク丸廻りで週通船を自直してあらうさいまで元気がなつていまし

十月二十九日、晩餐があらず
三十日赤々と夕陽に照らす
されと暗影があり、なんかが朝じられませんでした。早く二月が三月と申しておられましたが、雨は無いが尚残るへ晴雲であれまことと云ふ、未だしてまだ暖かいものと思っておりましたのが暖かいので用意をし、三十日に迎えることができました。でも僕の赤ちゃんのと本娘は、妻がまだ小さく、このお正月準備で忙しくてあれがろくかと困りました。三十一日は教会の前で、同じきお参りなさぬ教会を出かけまして、阿太の稲子、お世の端で、豊田御前さん、子供の上で

[illegible]

お祈り申し上げ、夜明けの五時過ぎ
さま、御静養をせられていた。さま
したところ、六時半頃から顔に血
の氣が上り始め、暮も氣も少しづ
つ衰へ出し、吐血と成つたと止ま
り、七時間や二週間に運ばれ、
少しうらになる朝水ツツ片牛片
手助けながら、外手で御静養の
平素かたし、心の神に委じつ
つ二度助けてしまふ。翌朝「娘
の生命を助けていただいた」とさ
との言ひはまたとえようともな
く、口々感謝で胸が一杯でした。
八時過ぎ、度家へ相見えし間、
その足先教會へかけつけ、神様に
お礼申しあげ、午後病院へ引越
しました。病院の廊下の中に赤き
やんの面が有ります。元氣そう
な赤きやんの中に保身別二尊入
れてあり、小さな赤きやんの方
ておりました。どらが私の方の
子供かと思ふ。一階の客へ上
りました。娘の車輪頭よりいにな
つておりました。病院の屋敷の食
事も約分の一ほどだけなす、出
血の方も減り、やと安心してい
ました。が、娘が来るにつれ
赤ん坊がいぢらしく、困めるこ
となあけられぬといふ思ふ。こ
ろからして、私の赤ん坊は、
おぼろげなとお聞きされたこと

る。四半點兒でもよい方當
ざりました。あの赤きやん
子供、いかに神様に助け下さ
るのは謝してないかと、思ひ
たい。無知にてにもかゝる御静
養いたなされてやう方がよいと
思ひ、毎日の外か行きて福
りと三つ御静養をいたしました
する。道直なるは白目も無
事過ぎ、この赤きやん助けていた
だけのことは、一階へ不安と
赤心に感ずつたなら神様にお
祈せませうと御静養を続けまし
た。生後十百目に達するまで
よむことが出来た。赤ん坊は
このまま月が明けたら、神
隠は早くても月末か頃になり
ましよと、どのときで取りな
らぬ娘連れで帰りたいしまし
た。

その後、日記きに病院へ出か
け、座下から御静養いたしてお
りましたところ、阿茶さんのお抱さ
ん(娘の経路の名)が、赤きや
んが少しづつミルク飲むうちに
なりまして中々、生後十四
日、五日もある小さな子供なの
にも数えずに生じてくることを
お勤めて知りました。その赤き
こが、えられるでしょうか。

これで助けたいける。と願

そして今後病児の二世の成長の
御守護をお願いしたいました。小
さいですら神様も使いました
が、小さいながらもミルもよく
飲み、元氣よく立歩いたり、囁
詞にすぐくと成盛、四十七年の
二月四日おそなきながらのお抱
を教へてお祈りしていただく
ました。生後半年よりして年輩日
通りに生まれ赤きやんを日々々
らいまで成長いたしました。

十一か月半頃から求す水が強い
事があるため、十一月四日のお抱
生目には、手はして、足屋と
当に御無理なお願いを申し上げ、
母子共に助けたいと思つて、
この御恩は事に非難はないであ
らわさせな。ただただありがた
うをいまず申すのみです。こ
の秘めたるの間際あり、五箇日
あたま御用までおりきよめ
で、神様に罪障を告しく、お救
け下さいましてお祈りして、
一日夜安寧とし、賢明な御
りながら、簡単に成長してゆき
世常愛につけながら申し訳
なく、この御恩は第一一生か
つて忘れるかなとぞ御願い。
ねならないと決心いたしました
私の幼なじみは娘さんのもので
が、男の子で、おられる方

